



九州電力株式会社 熊本支店
支店長 永原 聖也

九電グループ

カーボンマイナスに向けた挑戦

弊社は、昨今の脱炭素化の進展や国際情勢等の影響による燃料価格の変動など、急激な環境の変化に直面しております。このような中であっても、「ずっと先まで、明るくしたい。」という「九電グループの思い」のもと「持続可能（サステナブル）な社会の実現」を目指し、事業を通じて「社会価値」と「経済価値」を同時に創出するサステナビリティ経営に取り組んでいます。

サステナビリティ経営では、価値創出の基盤となる『多様な人財が活躍できる環境づくり』と『ガバナンスの強化』、価値創出の事業である『脱炭素社会の牽引』、『エネルギーサービスの高度化』、『スマートで活力ある社会の共創』の5つを経営上の重要課題と位置づけ、課題解決に向けた挑戦を続けています。

今回は、『脱炭素社会の牽引』に対する取組みについて紹介します。『脱炭素社会の牽引』においては、2050年カーボンマイナスの実現を目指す姿として位置づけ、「電源の低・脱炭素化」や「電化・省エネの推進」、「環境負荷の低減」などに取り組んでいます。カーボンマイナスとは、電化の推進や再エネ開発などによる社会の温室効果ガス排出削減において、九電グループの温室効果ガス排出量を上回る削減効果を生み出すことで、事業活動による社会全体の温室効果ガス排出量をマイナスにすることを意味します。

『脱炭素社会の牽引』の取組みのうち「電源の低・脱炭素化」の分野においては、再エネの主力電源化や原子力の最大限の活用、火力発電の低炭素化など多様な側面から対策を進めています。再生可能エネルギーに着目すると、九電グループでは、グループの中核会社である九電みらいエナジーへの再エネ事業の統合を進めています。同社は、2024年4月に行った地熱事業の統合に加え、現在準備を進めている水力事業の統合によって、主要再エネ5電源（太陽光・風力・バイオマス・

以降は会員専用ページにて公開しております。2023年度末

ご覧頂くには、取組、入会手続き後、会員専用ページより

アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)